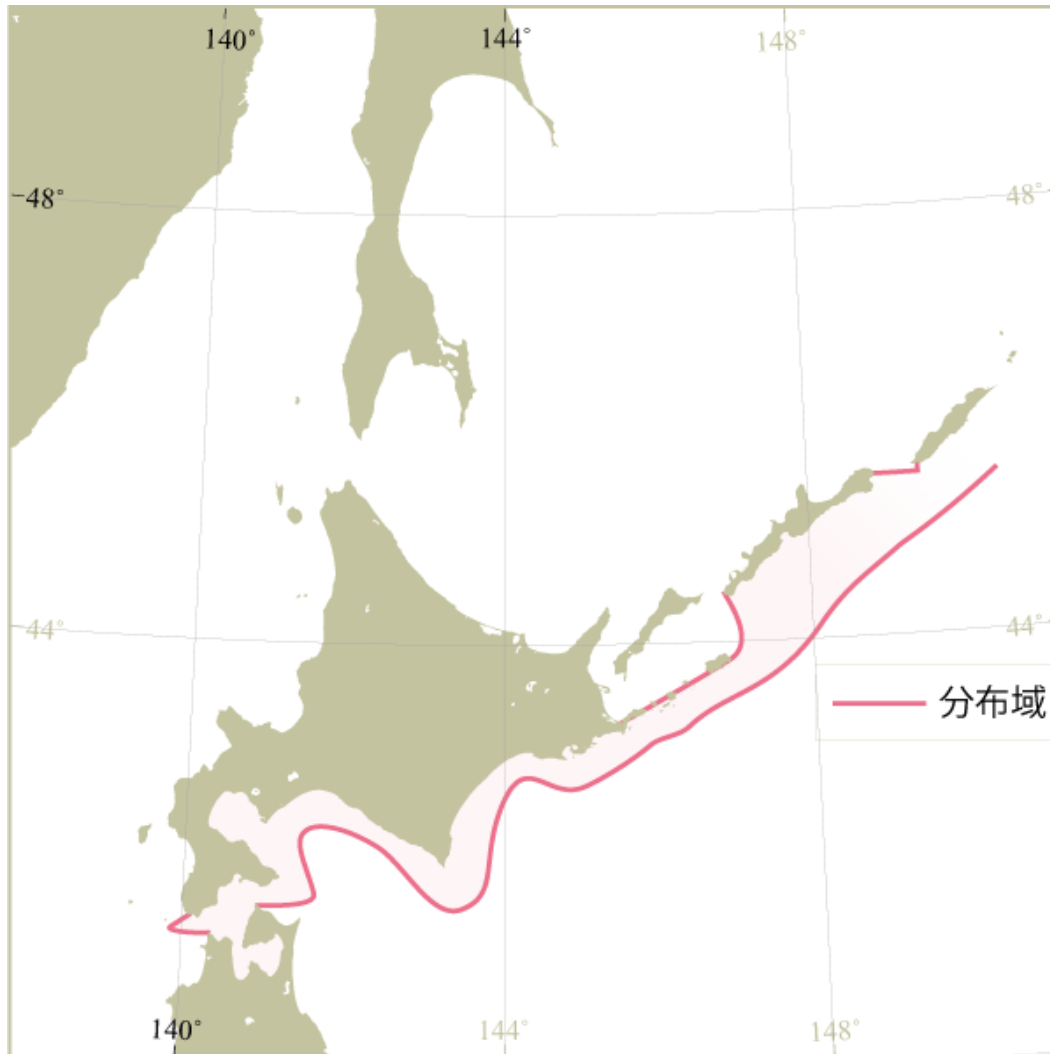




マダラ北海道太平洋 令和4年度資源評価結果

生物学的特性

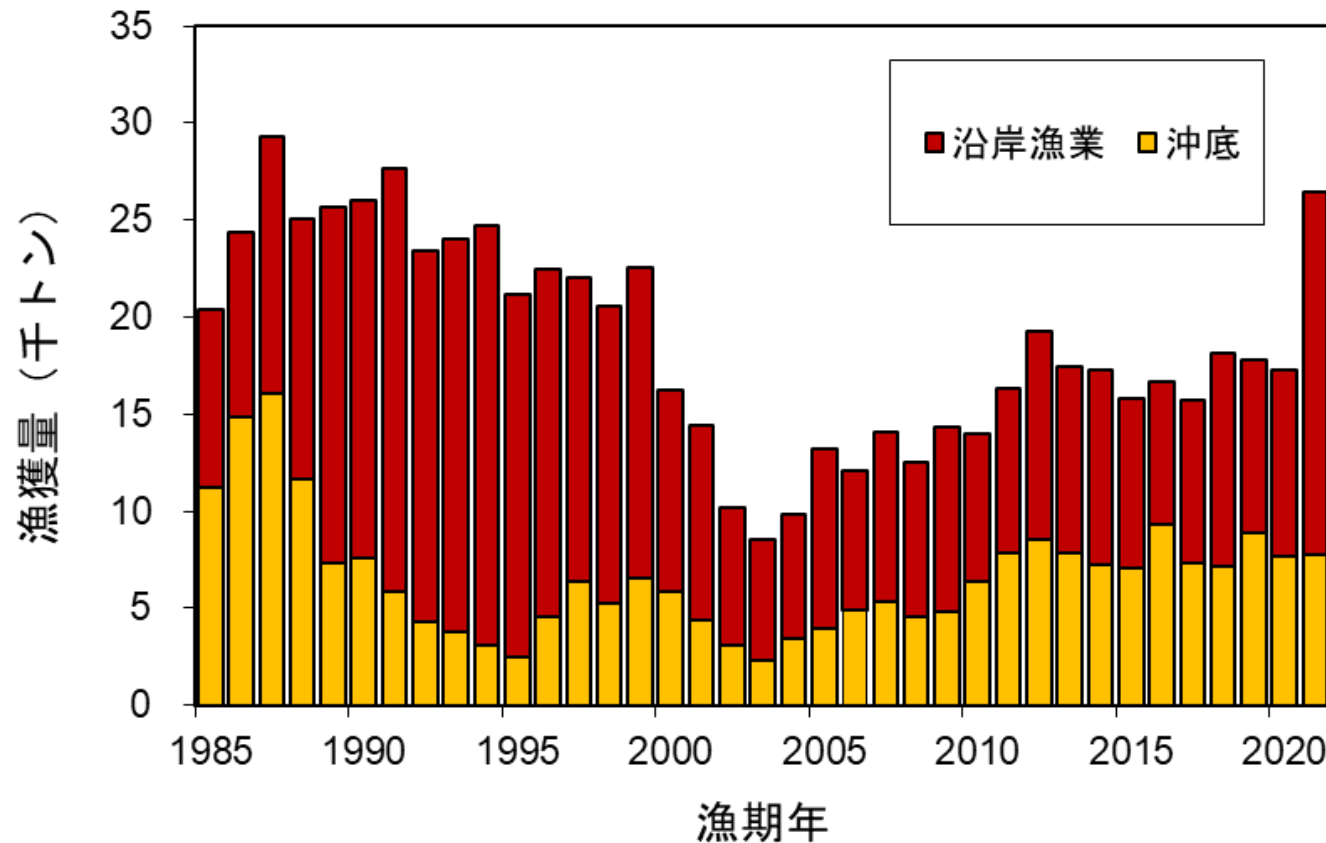


生物学的特性

- 寿命：10歳
- 成熟開始年齢：
雄3歳、雌4歳
- 産卵期・産卵場：
12月下旬～翌年3月、
分布域全体に散在
- 食性：
漂泳生活をしている幼稚魚
期は主にカイアシ類、
底生生活に入ってからには主
に魚類、甲殻類、頭足類、
貝類
- 捕食者：海獣類

- ほぼ周年漁獲されるが、冬季～春季に漁獲量が多い

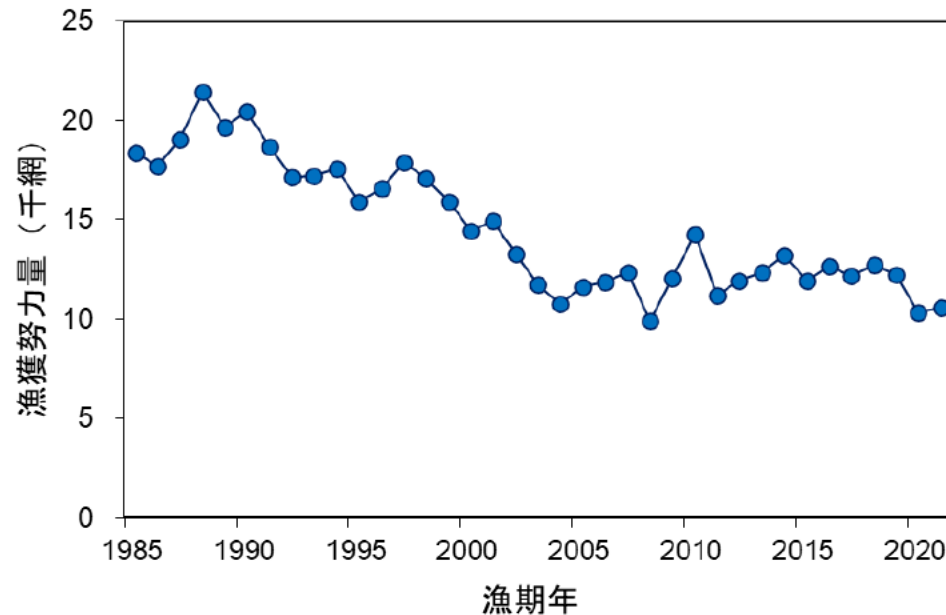
漁獲の動向①



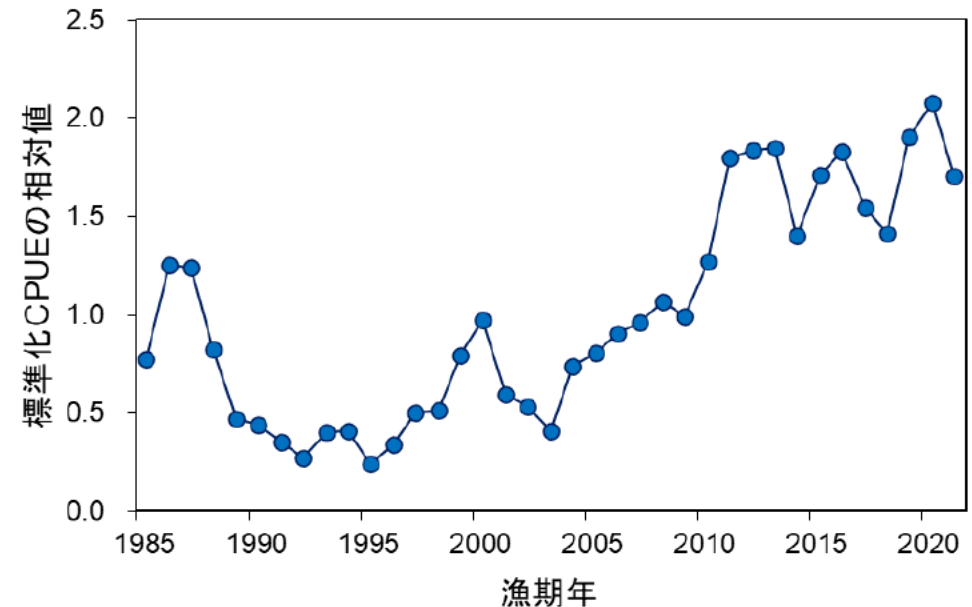
- 2021年漁期（4月～翌年3月）の漁獲量は2.6万トン（沖合底びき網（沖底）0.8万トン、刺網、はえ縄などの沿岸漁業1.9万トン）
- 沖底の割合は1997年漁期以降3～6割
- 沖底漁獲量の大部分は100トン以上のかけまわし船

漁獲の動向②

漁獲努力量の推移



標準化CPUEの相対値の推移



※漁獲努力量：マダラの漁獲があった操業（有漁操業）の曳網回数

※標準化CPUE：操業月や操業海域などCPUEに含まれる資源の経年変動以外の要因を取り除いた1網当たり漁獲量。平均を1として基準化した相対値を示した

- 100トン以上の沖底かけまわし船の漁獲努力量は1990年代以降減少し、2002年漁期以降ほぼ横ばい
- 100トン以上の沖底かけまわし船によるマダラの標準化CPUEは2011年漁期以降、平均を大きく上回る

資源評価の流れ

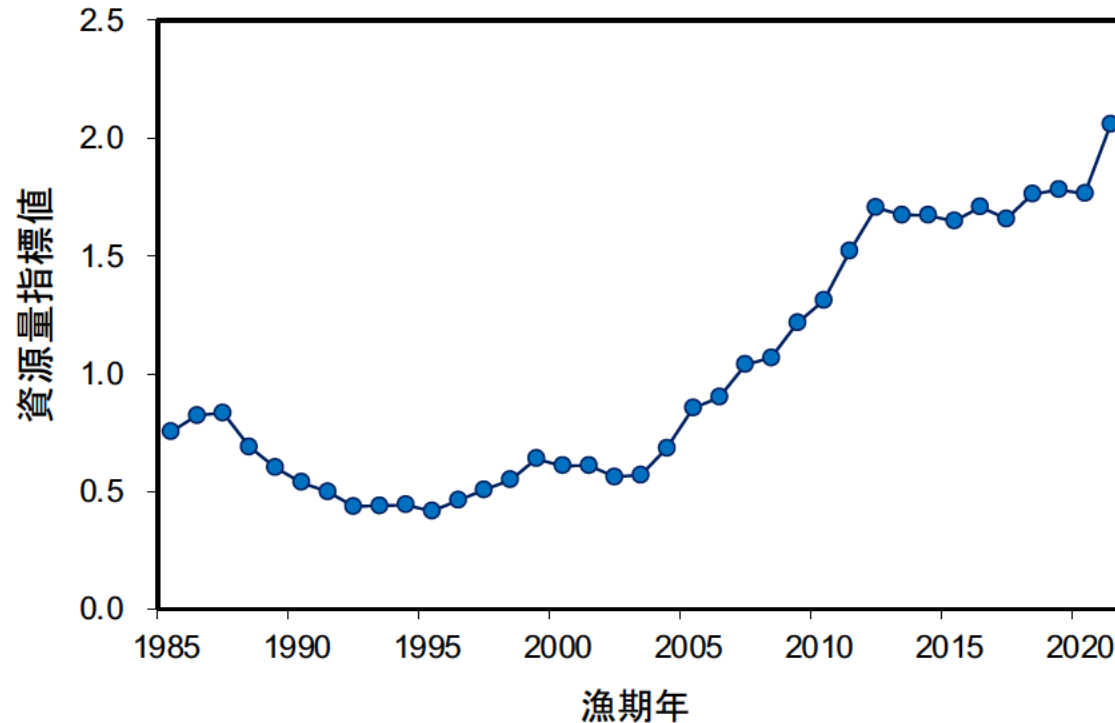
1985～2021年漁期の漁獲量、沖合底びき
網漁業（かけまわし）の標準化CPUE

余剰生産モデルによる資源解析

資源量指標値の推移
資源の状況

管理に係る目標等基準値、資源の動向などについては、
本年度中に開催される研究機関会議資料に記述します

資源の動向



※余剰生産モデルで推定された資源量指標値（資源量の平均値を1として基準化した相対値）を用いた

- 資源量指標値は1985～2003年漁期にほぼ横ばいで推移したのち2004～2012年漁期に増加して、2013年以降は平均を大きく上回っている
- 2021年漁期の資源量指標値は2.06で、1985年漁期以降最も高かった

資源評価のまとめ

- 漁獲量と標準化CPUEを用いて余剰生産モデルで推定された資源量の相対値（平均値を1として基準化した値）を資源量指標値とした
- 資源量指標値は2004～2012年漁期に増加して、2013年漁期以降は平均を大きく上回っている。2021年漁期は1985年漁期以降最も高かった

管理に係る目標等基準値、資源の動向などについては、本年度中に開催される研究機関会議資料に記述します